

事務事業評価資料

施策名	生物多様性の保全の推進	所管部局課名	農政環境部環境創造局自然環境課						
事業名	シカ個体群管理事業	担当者電話番号	野生鳥獣係 4115						
事業目的	農林業被害の軽減を図り、被害地域拡大及び森林生態系被害を抑制 シカの密度低減を図り、分布拡大を抑制								
事業内容	市町が行うシカの広域一斉捕獲の支援 対象者：市町 補助対象経費：市町が行うシカの広域一斉捕獲に要する経費（補助率：県1/2以内）事業主体：市町				事業開始年度	平成19年度			
事業に要するコスト	区分	平成19年度決算額		平成20年度当初予算額		平成21年度当初予算額			
	事業費	(16,677 千円) 16,677 千円		(32,720 千円) 32,720 千円		(52,075 千円) 52,075 千円			
	人件費	8,914 千円	従事人員 1.0人	8,471 千円	従事人員 1.0人	8,360 千円	従事人員 1.0人		
	総コスト (+)	25,591 千円	従事人員 1.0人	41,191 千円	従事人員 1.0人	60,435 千円	従事人員 1.0人		
事業の目標	年間捕獲数の拡大			[目標設定理由]狩猟及び有害捕獲を含めた年間捕獲目標達成のため					
	シカの目撃効率（生息密度指標）1.00以下			[目標設定理由]シカの目撃効率1.00以下になると、農業被害及び森林被害が抑制されるため					
目標の達成度を示す指標	指標名	目 標		19年度実績	20年度見込み	21年度目標	達成率（%）		
		目標値	年度				H19	H20	H21
	年間捕獲頭数	2,000頭/年 4,000頭/年 6,000頭/年	H19 H20 H21	1,900頭 (13 千円)	3,524頭 (12 千円)	6,000頭 (10 千円)	95.0%	88.1%	100.0%
シカの目撃効率 (前年との差)	1.00	H23	1.47 (0.13) (196,854 千円)	1.34 (0.13) (316,854 千円)	1.18 (0.16) (377,719 千円)	68.0%	74.6%	84.7%	
評価結果	必要性	・第3期シカ保護管理計画に基づき、シカによる農林業被害等の防止を図るための積極的な捕獲が必要である。							
	有効性	・市町による広域一斉捕獲の経費支援を行うことにより捕獲頭数が増加しており、生息密度の増加が抑制できている。							
	効率性	・1頭当たりの捕獲経費は減少してきている。 ・21年度からは、より効率的に捕獲できる「わな獺」を対象に加えるほか、インセンティブが働くよう、報償費の算定方法を見直した。 ・近隣府県と比較しても平均的な額である。							
	民間・市町との役割分担	・県：市町ごとの捕獲目標頭数を設定 ・市町：事業主体（県補助率：1/2以内）							
	受益と負担の適正化	・シカは広域に行動して被害を発生させるが、共生が図られていれば、被害の抑制を図ることができ、共生自体には、いわゆる受益者はいない。 ・また、本事業により、被害の抑制が図られるが、追加的利益を生じさせるわけではないため、県及び市町負担で実施する。							
方向性	新規	（ <u>拡充</u> ）		継続	実施手法の見直し				
	廃止	縮小	統合	凍結(休止)	延長	終期設定			
実施手法の見直し内容	市町移譲	民間移譲	民間委託	PFI	負担割合変更	事務改善	その他		
実施方針	第3期シカ保護管理計画に基づき、目撃効率（1人の狩猟者が出猟1日当たりに見かけたシカの頭数）を1.00にまで減少させることを目標とし、下記のとおり事業拡充する。 ・捕獲目標：(H20)4,000頭 (H21)6,000頭 ・事業期間：(H20)4/15～7/14、3/1～3/31 (H21)4/1～7/14、11/15～3月31日（但し狩猟期間中は鳥獣保護区内のみ） ・実施方法：わなを事業対象化、平日対応できる特別捕獲班の設置 ・捕獲報償費：(H20)4,800円/日+1,000円/頭 (H21)4,800円/日+2,500円/頭に加え、頭数制（銃器：16,000円/頭、わな：8,000円/頭）を新たに実施								